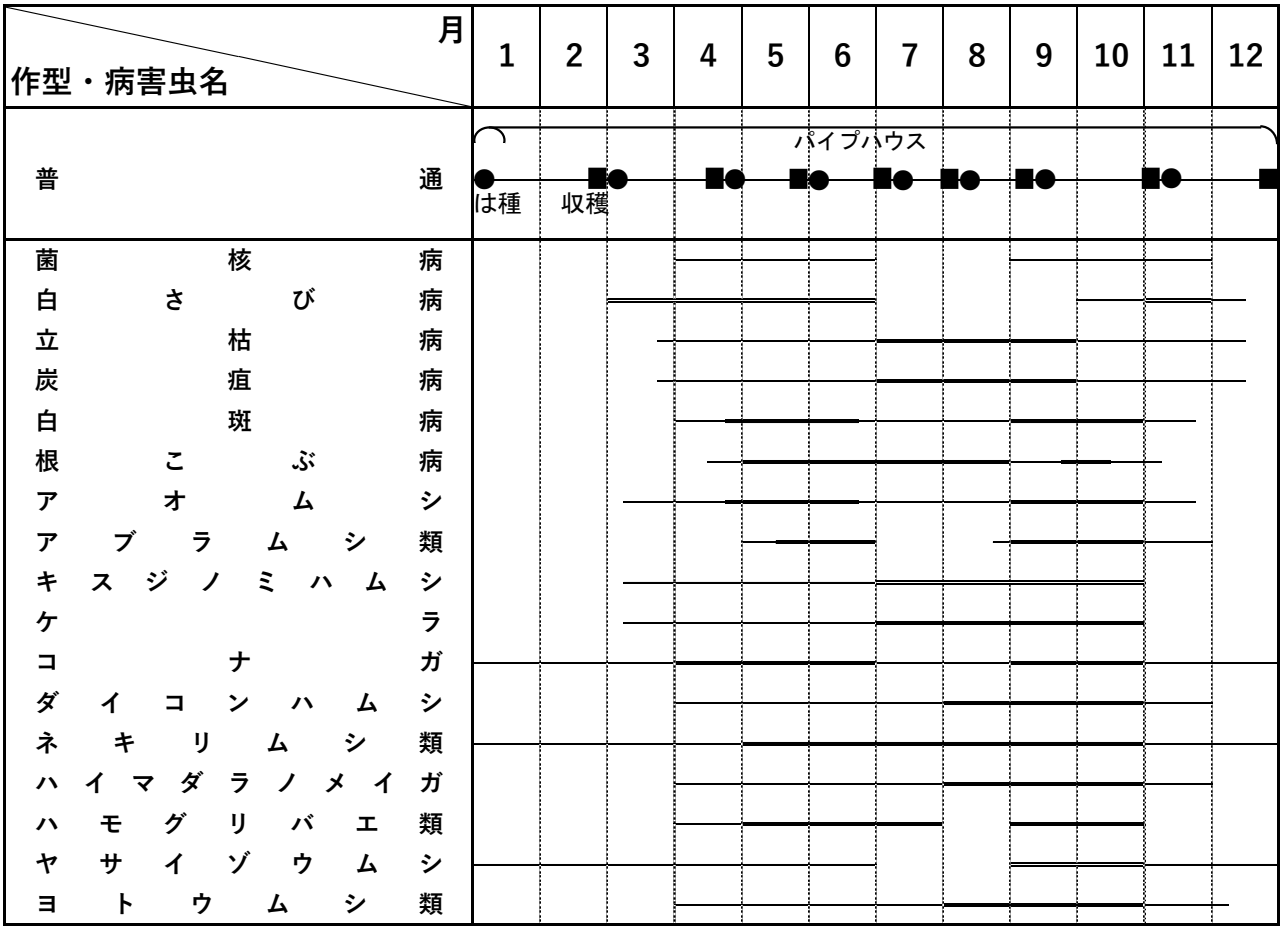
みずな

「みずな」には「みぶな」も含まれる。

「みずな」には、「みずな」「非結球あぶらな科葉菜類」「葉菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。



菌核病

留意事項

1 春・秋に発生する。
2 種子伝染する。
3 気温20℃前後で曇雨天が続くと多発生しやすい。

防除方法

1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
3 ほ場の排水をよくする。
4 密植を避け、通風をよくする。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
6 下記の薬剤を予防的に施用する。
・ロブラール水和剤 2 【1000倍　45日／2回】

白さび病

防除方法

1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
3 ほ場の排水をよくする。
4 密植を避け、通風をよくする。
5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
6 下記の薬剤を施用する。
・ユニフォーム粒剤 4 １１ 【9kg／10a　全面土壌混和　は種前または定植前／1回】
・リドミル粒剤2 4 【10kg／10a　全面土壌混和　は種時または定植時／1回】
7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アミスター20フロアブル １１ 【2000倍　7日／2回】

立枯病

留意事項

1 病原菌はリゾクトニア菌およびピシウム菌である。
2 立枯病、リゾクトニア病、苗立枯病などとも呼ばれる。
3 多湿条件で発生しやすい。

防除方法

1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
3 ほ場の排水をよくする。
4 密植を避け、通風をよくする。
5 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
6 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（ＸⅢ土壌消毒　参照）
・バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 劇 ー
【立枯病（ピシウム菌）　30kg／10a　所定量を均一に散布して土壌と混和する
は種12日前／1回】
・キルパー ー
【苗立枯病（リゾクトニア菌）　原液として60L／10a
所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する
は種または定植10日前／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

7 は種時に下記の薬剤を施用する。

・ダコニール1000 Ｍ５【1000倍　土壌かん注　は種時／1回】

・リゾレックス水和剤 １４【リゾクトニア病　1000倍　土壌かん注　は種時／1回】

・タチガレン液剤 ３２

【500倍　土壌かん注　は種時／1回】

【みぶな　1000倍　土壌かん注　は種時／1回】

炭疽病（たんそびょう）

留意事項

1 降雨が多く、気温が高い時期に発生が多い。

2 進展がきわめて速いため、発生初期の抜き取りが重要である。

防除方法

1 わら、またはポリフィルムなどでマルチングする。

2 被害株は速やかにほ場外へ持ち出し適切に処分する。

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ベンレート水和剤 1【4000倍　14日／1回】

白斑病

留意事項

1 気温が低く、湿潤な条件が続く秋期に発生しやすい。

防除方法

1 排水を良好にする。

2 密植を避け、通風をよくする。

3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ベンレート水和剤 1【4000倍　14日／1回】

根こぶ病

留意事項

1 降雨が続く秋期に発生しやすい。

2 気温が高く、日照時間が長い時に発生しやすい。

3 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。

2 排水を良好にする。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（ＸⅢ土壌消毒　参照）
・バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 劇 ［－］
【30kg／10a　所定量を均一に散布して土壌と混和する　は種12日前／1回】
5 は種前に下記の薬剤を施用する。
・フロンサイド粉剤 ［２９］【30kg／10a　全面土壌混和　は種前／1回】
6 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

アオムシ

留意事項
1 幼虫による被害は春と秋に多い。
2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
3 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法
1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スピノエース顆粒水和剤 ［5］【5000倍　3日／1回】
・アディオン乳剤 ［３Ａ］【2000倍　前日／3回】
・ＢＴ剤 ［１１Ａ］（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

アブラムシ類

留意事項
1 ウイルス病を媒介する。
2 少雨のときに多発しやすい。

防除方法
1 べたがけ資材の利用により、被害軽減に努める。
2 は種時～定植時に下記の薬剤を施用する。
・ジェイエース粒剤、スミフェート粒剤 ［１Ｂ］
【6kg／10a　作条散布後土壌混和　定植時／1回】
・ダントツ粒剤 ［４Ａ］【6kg／10a　播溝処理土壌混和　は種時／1回】
3 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
・アディオン乳剤 ［３Ａ］【3000倍　前日／3回】

キスジノミハムシ

留意事項
1 高温乾燥が続くと発生が多くなる。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 シルバーマルチを利用する。

2 は種時または定植時に下記の薬剤を施用する。

・ダイアジノン粒剤5 １Ｂ

【6kg／10a　全面土壌混和　は種時または定植時／1回】

ケラ

防除方法

1 下記の薬剤を土壌施用する。

・ダイアジノン粒剤5 １Ｂ【6kg／10a　全面土壌混和　は種時／1回】

コナガ

留意事項

1 葉裏に網のような繭をつくって蛹になる。

2 春～初夏、秋の発生が多い。

3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スピノエース顆粒水和剤 5【5000倍　3日／1回】

・プレオフロアブル ＵＮ 【1000倍　前日／2回】

・ＢＴ剤 １１Ａ（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

ダイコンハムシ

留意事項

1 夏の終わりから秋にかけて多発する。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アディオン乳剤 ３Ａ【3000倍　前日／3回】

ネキリムシ類

留意事項

1 根の株元をかみ切り、株はそこから折れて枯死する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 ほ場内および周辺の除草を徹底する。

2 は種時～定植時に下記の薬剤を施用する。

・ダイアジノン粒剤5 １Ｂ

【6kg／10a　全面土壌混和　は種時又は定植時／1回】または

【6kg／10a　土壌表面散布　出芽時／1回】

ハイマダラノメイガ

留意事項

1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スピノエース顆粒水和剤 ５【5000倍　3日／1回】

ハモグリバエ類

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スピノエース顆粒水和剤 ５【5000倍　3日／1回】

ヤサイゾウムシ

留意事項

1 成虫・幼虫ともに加害する。

防除方法

1 ほ場内および周辺の除草を徹底する。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アディオン乳剤 ３Ａ【3000倍　前日／3回】

ヨトウムシ類

留意事項

1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。

2 若齢幼虫の防除に重点を置く。

3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ーみずなー

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スピノエース顆粒水和剤 5【5000倍　3日／1回】
・プレオフロアブル ＵＮ【ハスモンヨトウ　1000倍　前日／2回】
・**ＢＴ剤** １１Ａ（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。